

進捗状況の概要（1ページ以内）

「学内の実施体制」

実施責任者である学長のもと、プログラムの実施は事業担当者（教育開発センター所長）の下で、グローバル事業部と各学部（先進工学部、工学部、情報学部、建築学部、教育推進機構）が連携して実施している。事業管理は学長企画室長を責任者として、学長企画室が担当している。

平成 27 年（2015）年度新設の先進工学部では、クォーター制と連動したプレリクイジット制による段階的な学習プログラムを実施し、平成 28 年度（2016 年度）は、情報学部でも同様の学習プログラムの実施を実施、平成 29 年度（2017 年度）には工学部もクォーター制導入へと踏み切ったことで、ハイブリッド留学の拡充が可能となり、全学的な教学改革の流れを加速させることができた。

「中心となる取組」

ハイブリッド留学については、平成 29 年度は 6 月～8 月に、工学部 1 年生対象にアメリカ・オーバーン（シアトル近郊）にて、6 月～9 月に、先進工学部・情報学部 2 年生対象にアメリカ・シアトルにて、9 月～12 月に、建築学部 3 年次対象にイギリス・カンタベリーにてハイブリッド留学を実施した。また、2 月～3 月に、全学部全学科全学年対象にニュージーランド・オークランドにて新規にハイブリッド留学春期特別プログラムを実施した。

実施年数を重ねるにつれ、留学中だけでなく留学前後のプログラムを充実したものとなっている。具体的には、歴史的背景を押えておくために参加学生に対して事前授業を毎週実施し、事前学習で、留学後にどんな自分になっていきたいか、そのためにどんな力が必要か、そのために意識してすることなどを目標設定シートに記入させ、学生の留学中の意識の改善を図るとともに、滞在中にフェイスブックを利用した「観察日記」の執筆を義務づけた。また、ハイブリッド留学直後に PROG を実施し、結果を学生にフィードバックするとともに、解説会を開催し、自覚していない自分の強みや弱みを認識する機会とした。

「取組の成果」

「観察日記」の執筆により、自らの体験を深化させつつ言葉として表現するトレーニングを行うことができた。学生にとってハイブリッド留学が一過的な体験ではなく、将来へとつながるものであることをより強く意識させることができた。また、ポートフォリオファイルの作成を課題とすることで、留学期間のふりかえりを目に見える成果物として残すことができた。

「補助期間終了後の継続発展に向けた取組」

平成 30 年 2 月にハイブリッド留学運営委員会を発足させ、「ハイブリッド留学規程」「ハイブリッド留学運営委員会規程」を新たに整備した。これによって、補助期間終了後も円滑な運営が可能となった。

「学内外への波及効果」

以前から実施している University of Limerick の語学研修プログラムを改善し、ハイブリッド留学を通して開発した手法を一部取り入れ、語学研修以外にも学習のできるプログラムとして試行的に実施した。また、参加学生の自主企画による活動として、春期のハイブリッド留学参加者がその経験を他の学生たちに伝えるイベント（ニュージーランド day）を開催した。春期語学研修の参加者も同様のイベント（アイルランド day）を行った。海外協定校からの外国人学生を積極的に迎え入れ、様々なイベントを通じて外国人学生との交流を楽しんでもらおうという CAP（キャンパス・アテンディング・プログラム）と合わせ、学生たちの海外に向けた関心をより高めることができた。学外への波及効果としては、2017 年 10 月にシンポジウムを開催し、同テーマⅣ採択校の武蔵野大学、福岡女子大学を招いてパネルディスカッションも行き、広く多くの方へ本学の取組を知ってもらうことができた。